

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果（技術情報第16号）について（送付）
八代地域で3月28日に実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、指導の参考にして下さい。

発蛾最盛日の予測は平年より3日遅い4月20日。
越冬世代（幼虫+蛹）の発生量は平年並。

記

1 調査結果の概要

越冬世代の発生量 平年並
越冬世代成虫の発蛾最盛日 平年より3日遅い

- (1) 幼虫及び蛹の発生量は、1.8頭/10 m² (平年3.0頭/10 m²) と平年並の発生であった(表2、図1)。
(2) 越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年(4月17日)に比べ3日遅い4月20日と予測された(表1)。

2 防除対策

- (1) 4月の第1世代幼虫の防除を徹底することで、「長イ」を加害する第2世代幼虫の発生を抑えることができる。
(2) 防除適期は、粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤が発蛾最盛日から7日後である。なお、気温が低くなると羽化がばらつくので、発蛾最盛日から7日間隔で2～3回の防除を行う。
(3) 予測される発蛾最盛日は、今後の気温により変動し、地域によるばらつきもあるので、ほ場をよく観察するとともに、予察灯への飛来状況に注意して防除時期を判断する。

※今後のイグサシンムシガに関する情報（積算温度による発蛾最盛日予測、予察灯データ）については、病虫害防除所のホームページ (<http://www.jpjn.ne.jp/kumamoto>) に随時掲載します。

表1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

年次	蛹化率	発蛾最盛日
本年	17.9	4月20日
昨年	16.9	4月18日
平年	22.5	4月17日

注) 蛹化率：調査区外の幼虫、蛹数も含めて算出

発蛾最盛日：50%蛹化率+16.7日(蛹期間の平均気温が18℃の場合)

50%蛹化日：(50%-調査日の蛹化率)÷蛹化の増加率+調査日-31日

蛹化の増加率：5%(1日平均)

表2 イグサシムシガ越冬調査結果

(調査年月日：平成28年3月28日)

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10m ² (幼虫+蛹)	茎数/株
1	八代市	野崎	100	0	0	0	0	0.0	40.4
2		鏡	100	0	0	0	0	0.0	57.4
3		宝出	100	0	0	0	0	0.0	53.6
4		有佐	100	0	0	0	0	0.0	55.2
5		平和	100	0	0	0	0	0.0	41.4
6		金剛	100	0	0	0	0	0.0	81.8
7		高田	100	0	0	0	0	0.0	49.2
8		日奈久	100	2	1	0	1	2.8	81.8
9		郡築	100	0	0	0	0	0.0	47.0
10		昭和	100	2	1	1	2	5.6	41.2
11		北新地	100	0	0	0	0	0.0	53.2
12		東牟田	100	6	4	0	4	11.2	37.6
13		龍峯	100	2	0	0	0	0.0	57.8
14		太田郷	100	2	0	2	2	5.6	62.6
15		太牟田	100	5	3	0	3	8.4	47.8
16		吉王丸	100	1	1	0	1	2.8	55.4
17	氷川町 (旧竜北町)	新田	100	0	0	0	0	0.0	59.0
18		鹿野	100	0	0	0	0	0.0	32.0
19		網道	100	0	0	0	0	0.0	57.8
20		野津	100	0	0	0	0	0.0	21.6
計			2000	20	10	3	13	1.8	51.7

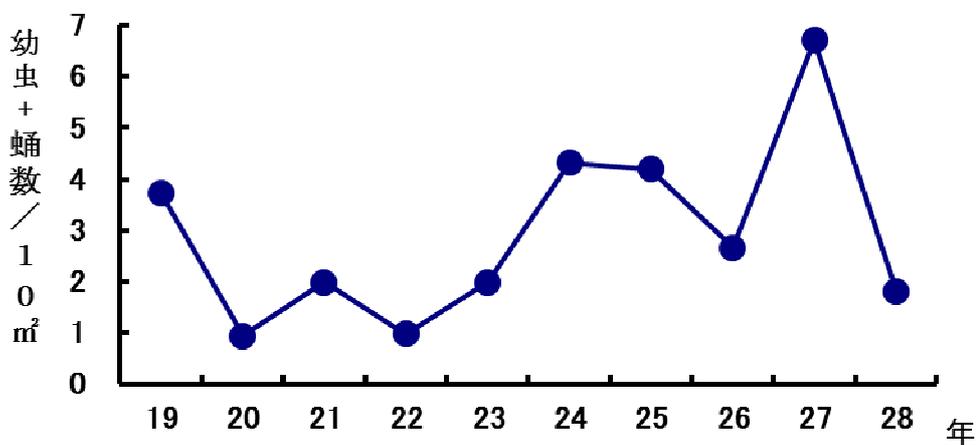


図1 イグサシムシガの越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移（八代地域）

問い合わせ先 熊本県病害虫防除所
(生産環境研究所)
担当：加賀山
TEL:096-248-6490